

盛岡シネマタウン社会実験フォーラム議事録

日時：平成 17 年 2 月 19 日（土）13:30~16:30

会場：大通りリリオ 3F イベントホール

主催：盛岡シネマタウン社会実験実行委員会

後援：東北地方整備局岩手河川国道事務所、東北運輸局岩手運輸支局、岩手県、盛岡市

盛岡大通商店街協同組合、盛岡商工会議所、盛岡まちづくり会社、社団法人岩手県バス協会



司会) 特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム 2 1 事務局長 両川いずみ

・開会 / 挨拶

盛岡シネマタウン社会実験実行委員会副実行委員長

岩手県都市計画課総括課長 平井公康さん

盛岡も全国の中心市街地の例にもれず、空洞化している。東北では盛岡はまだまだ元気だといわれているが、切迫感を感じている。実行委員長の久木田さんとそういう課題を踏まえて、自転車から発想するまちづくりというワーキングを行った。これで終わるのもということで、全国で行われている社会実験でやってみようということになった。

社会実験というのは、ドラスティックにやると影響があるので、エリアや時間を限定してまずやってみようというもの。みなさんに実感してもらうにはとてもいい機会。盛岡の大通りにしてもいまのままでいいとは思っていないが、じゃあいったいどうするのかという所で、歩いて楽しむまちづくりということで、自動車の方に遠慮してもらって、歩く人を主役にして街をつくってみようということで今回の実験に至った。私たちはこれですべてが解決したとは思っていない。ひとつの方法を提示したのだと思っていただきたい。中心市街地に頑張ってもらわなくてはならないという考えは皆も同じ。いろいろな方法があり、そのどれがいいかはまたこれからの選択。それに今回は一石を投じた。

今回は車に遠慮してもらったが、いろいろとこれからどうしたらいいのか模索しながら、これから盛岡が北東北3件の中心として残っていかなくてはならない。私自身は魅力ある街だと思っているので、そういうのを大事にした街を考えていくそのきっかけにしてほしい。この社会実験がこれで終わるのではなく、次につながるきっかけになっていけばと思っています。

・結果報告

1. 概要

岩手県都市計画課 菊池さん

・実験の目的について

全国的に中心市街地の疲弊が問題となっていて、大型店の進出に伴い、大型店とは違った魅力を模索しなくてはならない。様々な方法の中から、歩いて楽しむ街の魅力向上という方法を検証することとなった。

➤ 社会実験という言葉について

地域が抱えている問題を解決するため、新しい取組みを場所と期間を限定して、実際に体験することで取組みが実現するかどうかの判断をするもの。国土交通省の補助を得て実施。実行予算は1000万円。商店街の市民団体でも申請が可能であり、県内では紫波町と東和町が、地元商店街が中心となって実施されている。

➤ 団体構成

代表団体は、特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム21。バス、タクシー、商業関係など、実験項目に関係する団体に加え、道路を使った実験なので、県警にもオブザーバーとして参加いただいている。

➤ 実験会場 盛岡大通り

➤ 実施期間 10月2日～10日、23日～30日

➤ 内容 トランジットモール化とパーキングチケットの活用。

みちのく国際ミステリー映画祭などとの相乗効果を狙って行われた。

➤ トランジットモールについて

トランジットモールとは、一般車両の通行を抑制して、バスなどの公共交通機関だけを通行できるようにして歩行者中心の街路にしたもの。ヨーロッパなどでよく行われている。

<フライブルク(ドイツ)の写真紹介 LRTを導入。2年ほどで軌道に乗った。>

大通りは一般車両を通行止め、バスとタクシーのみを通行可能とした。

バスは盛岡駅を発着点として、大通 菜園 盛岡駅。一周25分のコース。

料金は大人100円のワンコインで、20分おきに走行。新たに大通り3箇所にバス停を設置した。

➤ 交通規制

交通規制を実施。大通2箇所に誘導員を配置。

その他の大通りを横切れる道は看板を設置して規制を行った。

バス運行は岩手県交通に委託し、低床バス「でんでんむし大通り号」を走らせた。

走行速度10km/hと、かなりゆっくりと走った。タクシーの運行については、10km/hでの通行をお願いしたが、若干走行速度が速かったという話もあった。

➤ パーキングスペース

大通りでは計38台分のスペース

オープンカフェ、自転車駐輪帯、イベントスペースとして活用した。

➤ オープンカフェ

オープンカフェについては、シネマストリートプロジェクトにお願いして出店を募集。

前半は悪天候のため、平均4店舗の出店。

<オープンカフェ写真紹介>

寒かったため、テイクアウトの利用も多かった。

➤ イベント

一般公募を行い募集したが、応募件数少なく、土日のみの開催となった。第1クール、2クール最初にはオープニングパレードを実施。<写真紹介>

➤ 駐輪スペース

大通りには駐輪スペースが普段足りない。自転車が散乱しているため、並んで歩くこともままならない。今回駐輪スペースを使うことで、3メートルの歩道が確保できた。パーキングスペースを使ったことで、自転車が整理されて並んだ。<写真紹介>

➤ セミナー開催

大通りの活性化について勉強会を5回実施。

➤ 自転車プラザの開設

本部にてレンタサイクルの実施

➤ 情報発信

NTTドコモの協力により、期間中i-modeでの情報提供を行った。

➤ その他

東西の入り口にオブジェを設置

車道との境にはプランターを設置

一枚ずつストーリーが展開する絵本をバスに掲示

交通量調査、アンケート調査を実施

2. 交通量調査結果

岩手県技術士会 古山博康さん

➤ 来街者の状況

3区間で測定実施。平日 24000～5000人、休日 29000～30000人。

全体数に対しての変化はあまりない。

実験前に比較して歩行者の量は増えているが、自転車の量が減っている。

天気、駐輪場設置についてもあるので、来街者数を取るには歩行者と自転車の両方を足したもので判断しているが、その結果、来街者数はあまり変化なし。

数字はあまり変化がないが、天気が悪く寒かったにもかかわらず変化なし、というのは大健闘と考えている。平日をみると、各区間で大きな開きはないが、とくに日曜日第2クール、柳新道から映画館通りは増加、サンビ

ルの方にかけては減少している。

大通りと映画館通りのミスト前にオープンカフェ実施した影響でこの区間の人が増えたと考えられる。

また、時間帯ごとの変化をみると、実験実施期間中はお昼前にピークが見られる。日曜日のイベントの影響があるかもしれない。

➤ 駐輪場利用状況

期間中自転車がいかに整理された。設置された駐輪場の影響だけではないのかもしれない。駐輪可能台数以上にとめられたと思われる。実験中歩道が広がった。駐輪の整理員が整理したこともあるが、きれいに駐輪されているのを見て他の場所でもきれいにおくようになった。

駐輪整理が利用者のマナー向上につながった。

➤ 実験期間中の交通渋滞

10月20日(火)に大渋滞発生。大通りを通る約1時間に1900台の自動車が、中央通に780台、菜園に900~700台が迂回した。

10月5日(火)7時時点。駅方向に向かって渋滞が発生。

岩手公園下の渋滞は中央通の渋滞によって起こったもの。しかし、6日(水)には、比較的スムーズに流れていた。社会実験が行われなかった10月14日(火)にも渋滞が発生。

交通量が増えたから渋滞したのかというと、そうではない。実験前後の交通量はほぼ同じ。

第2クールには、若干量が増えた。

考えられる渋滞の原因としては、

(1)盛岡市中心部の交通は微妙なバランスで保たれており、急な寒さによる交通量の増加、ピーク交通量の増加によって、あふれた。

(2)幹線道路の荷捌き駐車、とくに映画館通りから三戸町において、中型自動車・小型自動車が両側に常時止まっており、それが影響したと考えられる。

微妙なバランスの上にあったのが、荷捌き駐車により止められてしまった。

➤ タクシー

平日と日曜ともに大通の走行を可能にした。日曜日は通常歩行者天国のため、走行数の直接比較はできない。平日500~700台のタクシーが通っている。期間中目視によると、単に大通りを通過しているだけのタクシーが多かった。

➤ でんでんむし大通り号

大通りの一方通行のため、盛岡駅 中央通 映画館通り 菜園前 大通り 盛岡駅というルートで実施。

一台平均中央通6人、帰り3人と多くは無かったが、岩手県交通からは、成長の望める路線、とのこと。ただいま本格運行に向けて調整中とのこと。

3. アンケート調査報告

特定非営利活動法人いわてNPOフォーラム21副代表理事 中村一郎さん

(1) 来街者アンケート

- 調査実施日：第1クール、第2クールそれぞれ2日ずつ
- 調査形式：対面聞き取り
- 標本数：計585

- 基本属性 勤労者37%、10～20代が46%と多い
- 大通りに来た目的
買い物目的の方が約半数。
- 一般車両進入禁止について（交通手段別）
来街者：進入禁止については半数がよい、
自動車：約6割がよい、
徒歩：8割がよい、との回答
- タクシーの通行について（交通手段別）
全般：5～6割が良いという評価の反面、
自転車：24%が良くないとの回答。
- 駐車スペースを駐輪場としたことについて
徒歩：82%がよい、
自動車：76%がよい、と評価

おおよその項目について、7割前後の方から評価をいただいているが、タクシー運行については、他項目に比べて良いという評価が低い(53%)

- 恒久的な実施について
72%の方が、良いという回答。

来街者についてはおおむね好意的評価をいただいたと考えられる。

(2) 商店街アンケート

- 調査実施方法：10月31日にお店に手渡し、投函
- 標本数：37（200部配布のうち37部回収<回収率15%>）

回収率が低いので、かならずしも大通り全体の意見ではないかもしれないことを理解いただいたうえで見ていただきたい。

- 期間中の売上増減
変わらない57%、減った27%

➤ 社会実験にあわせて取組みをしたか
特に行っていない78%

われわれの商店街への働きかけに問題があったと考えている

➤ 一般車両進入禁止について
よくない46%、よい27%

商店街は否定的回答の方が多かった。理由は

(1) お客様に不便をかける、(2) 商品の半出入が不便になる、(3) 周辺渋滞が起こる、という要因が挙げられている。

➤ タクシー運行
よい39%、よくない28%

タクシー速度が速すぎた、お客さんには必要という意見があった

➤ でんでんむし運行について
よい52%よくない16%

バス運行については好意的評価が多い。課題としては、運行そのものについての認知度不足、停留所の場所についての問題との指摘をいただいている。

➤ 自転車の駐輪を駐車スペースにしたことについて
よい67% 好意的な意見が多いが、搬出入ができない、実施時間についての問題が指摘された。

➤ オープンカフェ
よい32%、よくない30%

もっといろんな業種の方にでたほうがにぎわいができるのでは、という意見があった。

➤ イベントの実施
よい38% よくない22%

イベントの目的がはっきりしないのではないかと、という意見があった。

➤ 社会実験の恒久的な実施について
土日に限定してやるべきではないかというのが約半数、恒久的実施を望むのが約2割。

・社会実験をふまえての提案（１）

1. 岩手県立大学学生グループ

代表 岩手県立大学総合政策学科４年 佐々木博希さん

学生自身が考える「歩いてたのしむ街について」県立大学総合政策学科の９名で話し合いを行った。

商店街の楽しめる要素

- ・ 商店がイベントを頑張っている、若者がかかわろうとしている シネマストリート、スタンプラリーなど

楽しめない要素

- ・ 駅から距離がある
- ・ 利用者の交通マナーが泡類
- ・ 歩道が歩きにくい、駐車駐輪に苦労する
シネマタウンの期間中バスを通した。
今後バス運行を続けてほしいという意見があった。

こんな街なら楽しめる！足りない要素は？

シンボルの創設、思い出の残せるまちづくりを！

シンボルの創設

商店街にシンボルがない。商店街に統一性がなく、観光客などを引き込めるものがない。

映画館通りを昭和風の街づくりにしてみてもどうか？

コストがかかる。実現が困難であろう

そこで、シャッターアートを提案！

シャッターアートとは、店舗や壁に絵を書き統一感を生み出すもの。

店が閉じられてしまったら商店街の面白みがない。そこで、シャッターに絵を描き、シンボルになり、統一性も生まれてくる。商店街が協力しあい、季節ごとにテーマ（盛岡の物語、など）をもうけ、ライトアップ、BGMで盛り上げてはどうか。

昼は店を楽しむ商店街、夜はシャッターアートを楽しむ商店街になる。また、歩いて楽しむ街になるのでは。全国の学校に呼びかけ全国に PR、また地元学生に書いてもらうなど、協力によって、地域のコミュニティーも充実する。

思い出の残せる街づくり

盛岡にはたくさんの高校や大学があり、県外から来る人も多い。しかし卒業すると盛岡を出てしまう学生も多い。そこで、そこに住んでいたのだ、という証を残せるといいのではないかと。レンガに卒業記念や、観光記念を残せる場所を作ることで、盛岡に来た証を残せる。盛岡に再び来てもらえるきっかけとなる。

koi が実る街

盛岡で恋が実るスポットをつくる。 観光地で恋が実るスポットを作る。伝説を作り、商店街のシャッターア

トで物語を紹介するなど。

盛岡が、魅力があり活気がある街になるには中心商店街の発展が必要。機会があれば学生も様々な活動を行いたいと気づかされた。若い力がなくては街づくりは成しえない。高校生、中学生、小学生を巻き込む街づくり活動を考えてもよいのではないか。そういう環境づくりも課題と考えている。

「koiする商店街」とは、「商店街で恋をする」だけではなく、「商店街に恋をする！」こと。

2. 実行委員会ワークショップからの提案

代表 清水畑貴彦さん

12月11日のワークショップにて、社会実験の結果を踏まえ今後の中心市街地のあり方を検討した。

テーマ：賑わいの創出

社会実験の悪かった点

- ・タクシーが邪魔、商店街に一体感を感じなかった、もっといろんな演出が欲しかった、商店街の参加を促せなかった、コンテンツ不足だった、など。

良かった点

- ・歩行者空間が広がった、人通りがいつもより多かった、バス運行がよかった、並んで歩くことができた、など。

社会実験のコンテンツ不足、商店街のコンテンツ不足のため、仕込み不足になり、そのため、コンセプトや具体的なイメージを共有できていなかったのではないか。

普段から、商店街と来街者はイメージの共有ができているのか？

商店街のしたい=来街者のしたい・されたい に一致しているか？

提案

商店街と来街者のイメージ共有のために、たくさんのストーリーを作ってみよう

- ・ショッピングのストーリー
- ・市民と商店街の交流のストーリー
- ・食べ歩きの話、など。

その中でだんだん商店街が持つべきであろう特徴、らしさが生まれてくるのでは。

それをみんなが共有できてくるのではないか。

そのときに賑わいがたくさん出てくるのではないか。

パネルディスカッション

(コーディネーター)

久木田禎一 地域プランナー/いわてNPOフォーラム21代表理事

(アドバイザー)

政所利子 社会実験支援

(パネリスト)

斉藤純 作家

佐々木俊幸 もりおかせんべい社長 大通商店街理事、社会実験副委員長

渡辺敏男 盛岡設計同人社長

佐々木博希 岩手県立大学総合政策学科4年生

清水畑貴彦

今回の社会実験について

斉藤純さん(以下、斉藤) >

ワークショップ、岩手県立大のまとめも非常に的を射ていて、それをどう受け止めるかということだ
と思う。

ストーリー性というのが両者に共通していたが、年配の方には違和感があるのかな、と感じた。

社会実験があるということについても、いい取組みがあると思って応援の文章を新聞に書いたのですが、銀幕の街を銀輪で盛り上げ、ということを書いたら、20代の方は「銀幕」が映画のことで、「銀鱗」というのが自転車ということを知らない。年代の差を感じた。

文化地層研究会で、賢治・啄木マップという地図を出した。それもストーリー。われわれも一役立っていると感じている。

これは、覚悟の問題だと思う。どう覚悟するかという路線でこれからお話したいと思う。

まず質問ですが、渋滞という単語を使っていたが、どう定義したのか？

古山さん >

いろいろな定義があるのですが、先程の資料は、県警の資料をいただきました。目で見えていきますと、実は市役所に勤めておりまして、10月2日はのろのろ運転で殆ど動いていなかった。まずは、車が列をなしていました。)

斉藤 >

渋滞というのは厳密な定義がないのですが、神奈川から帰ってきたので盛岡の渋滞は「混雑」程度にしか感じられない。

(会場より > 「それが地方のいいところだ・・・」等の声。) ~中略~

佐々木俊幸さん(以下、佐々木(俊)) >

歩行者タクシーなどの問題もありましたが、個人的には楽しい実験であったと思っています。

久木田 >

どういう点が楽しいと感じた部分だったのでしょうか？

佐々木（俊）>

夜など歩道をおあるくと、自転車も邪魔ですが、人も邪魔。あれだけスペースがあると、楽に追い越しができた。怪我をして松葉杖をして歩いていると歩きづらいな、と感じた。松葉杖をしていると非常に入りにくくて、これは直さなくてはならないなと感じた。

久木田>

実験中、歩道にあふれていた自転車を歩道に寄せたのですが、大通りってこんなに歩道が広がったのかと感じた。

渡辺敏男（以下、渡辺）>

エリアとして取り組めたのでうまく言ったのではないかと思っている。

いいにつけ悪いについて関わることでこの実験の結果を見たいなと思い、都市環境デザインという立場で社会実験を見た。

一つには、準備不足が非常に大きいと感じた。大きなお金が動いていたので半年ぐらいの準備期間があっても良かったのではないかと。

賛否があり、そういう問題点が出ただけでも実験の結果なのではないか、と思っている。

思いがけず駐輪場の解決策があるのだと感じた。一緒に自転車を動かしたのだが、すぐにでもできると感じた。常々言ってきたように、警察署にいている駐車場の収益が、大通りの収益に利用できないのかな、と思った。今後折り合いをつけながら利用していくのに十分面白いスペースだな、と思った。

久木田>

今回の社会実験をやったことで、いい面悪い面いろんなことについてそれぞれの良かった点悪かった点、それについて賛否を掘り起こせて実験としては良かった、と思う。

政所さん>

社会実験に関しては、社会実験の意義、どのようにサポートをしていくかというのを検討していく段階にきている。

なぜ社会実験となってきたかということ、規模や場所が違う中で単純に均一的には考えられない中で、まずは実験をして慎重にハード、ソフトをやっていきましょう、ということ。社会実験の委員も、ハード系の人が多いのですが、まちづくりや市民活動をしている人も入っている。

現場にいくと地元でのやっている方の意見と、歩いている方のささやきを拾うようにしているが、盛岡大通では、高校生の「歩けるんだ」という声がかきこえた。並んで歩けるんだということに純粋に喜びを感じていたのが新鮮だったのと、お子さんを連れていた方が、乳児の手を引いて歩けていることにびっくりされている。そういう当たり前のことをびっくりしていることに新鮮さを感じた。

東京では自由が丘でやっているのだが、自由が丘の道はとても狭い。それと比べると、なんて広いのだ、と感じた。自由が丘でやっている現状は、片付ける先から自転車を並べられ、まるで喧嘩のよう。今後のことを考えていって、どういうルール、マナーをどういうふうにするのか、スケールや形を取

り込んでいくのをどういう風にしていくのかを考えていく場というのが、第一の意見です。

今回の社会実験について付け加えたい意見

斉藤 >

今日の集まりが最後なのか？

久木田 >

イベントとしては最後。

今後フォーラムのまとめ、最終の実行委員会を開催し、国に報告して終了となる。

斉藤 >

一千万円の予算の用途を公表しないのか？

久木田 >

次回の実行委員会、当初組んだ予算と比較して、報告をする。

必要であれば、どなたでも見られるようにする。

斉藤 >

佐々木（俊幸）さん、この社会実験の後に、大通り商店街としての統一見解を出すのか。

久木田 >

実行委員会のメンバーは、いわて NPO フォーラム 2 1 という NPO が国土交通省と契約。地域の商工経済団体大通商店街、TMO、商工会、県、盛岡市、国土交通省盛岡河川国道事務所、など。

会場からの意見

小笠原さん（矢巾出身、名古屋在住）

大失敗に終わらなくて良かったな、と思う。大失敗に終わった例というのが各地にあり、まだ盛岡の場合はまだ望みをつないだかな、と感じている。

一方で福岡は大成功している。そういう事例を踏まえて今後の議論をしていただきたい。

山田さん（盛岡在住）

社会実験という名目だが、実際はその中に全国でいうと中小企業は 9 9 %、雇用人口は 6 8 %。盛岡の場合はとくに中小企業の部分が 8 0 % の人口を締めている。盛岡の経済事情、岩手県の経済事情は、決していいとは思えない状況。

歩行者を実験にすることでもって、事前のすりあわせが本当に少なかったように思う。

現場の商店街とのすりあわせが殆どなくて、勉強の上の実験であれば意味がない。

斉藤純さんが「覚悟」といっていたがどういう意味か。

若者が入ればいいのか、お年寄りはいいいのか？

ウイークデーは果たして歩いていたのかいないのか？

土日については休みの人が多い。盛岡の商店を歩く人数というのは果たしてどうか？

閑散として社会実験をしていますよ、といって「 やさんごっこ」というような幼稚なことをして
いていいのか。

緻密な部分の仮説を作るべきではなかったのか。

現場の者と話し合いをする。

配送が困っていた。

始めは10時から入ってこれないということだったが、反対して11時ということになり運送業者は
ホッとしていた。

あまりにも話し合いがなされないし、あんまり聞いていないというのが実情。

だから、他の方が言ったようには成功していません、失敗です。

久木田 >

すり合わせの部分に関しては、私たちも事前にもっと話し合いをすべきであったと反省をしている。

町屋さん

社会実験の期間中に通ってみたが、プランターを設置したとっていたが、置き方によっては危険だ
と感じた。せっかく歩道が広くなったのに、プランターが狭くした部分もあったのではないかと思っ
た。

第2点は、オブジェを設置しましたが、日報の投書で安っぽいというのがありました。背景、設置の
仕方によってもっとよく見えたのではないかな、と思った。

ストーリー性という話があったが、関西のスーパーに勤務している友人から聞いたはなしでは、たと
えば、豆腐の特売などでさえもストーリーを考えている。いろんな形でストーリーをつくるのは可能
ではないかな、と思う。

久木田 >

最初のプランターについては、プランターの目的は車道上にカフェ、自転車などを置いたのでその境
目に物理的に仕切りが必要。せっかくであれば花を飾ろうということで木製プランターをおいた。
もしかしたら場所によってはそういう置かれかたをしていた場所があったのかもしれない。

映画館まちづくり協議会中村さん

若者たちの実験、年寄りには捨て去られたような気がしている。

まず、公衆便所がない。そのため、知っていながらも、出てこられない。

そういう方にも多く参加してほしいと思う。

久木田 >

大通りは、昔は違ったと思うのですが、最近はこちらかという若い人が多い。が、私たちは大通り
は若者のための通りとは思っていない。

今の状態だと、車椅子の人は通れない。歩道を広くすることでそういう人もきてほしい、あるいは乳
母車をおしたお母さんにも来てもらいたいと思って実施した。

公衆トイレということについては考えていなかったが、商店街への意見として参考にしてもらいた
い。

斉藤 >

駅前ではお店がトイレを使えるようマークをつけているが、そういうことをすぐにでもしてもいいのではないか。

駅前商店街・小田中さん >

若い人だけじゃなくて、ご年配の方たちも、それからお子さん連れのベビーカーの方たちも安心して歩けるような街にしたいと思い、去年の5月から駅前の商店街でトイレを貸し始めた。

最初のきっかけは、観光客が来る店につとめているので、お客様から「トイレの少ない町だね」といわれることが多かったため。じゃあ、お客さんじゃなくても貸そうよ、ということで盛岡らしい表示板を設置した。

反対もあった。それをやると役所が公衆トイレを作らなくなるのでは、と言われた。

しかし私たち民間からできることを、ということで始めた。

最初9件から始まって、今はさらに拡大。大通りのきのえね本店も協力いただくことになった。大通りでも増えたらいいな、と思う。

駅前がめざしているのは、誰もが、どの年代の人たちも楽しめるように。また、若い人たちがこうしたいなというものの応援団にもなろう、とも思っている。

久木田 >

駅前と大通り、さらに肴町とも手をくむということになればいい、と思う。

斉藤 >

さきほど「覚悟」というのはなしがあったので。

イオンは僕の年代ではなにも車で行くほどじゃない。肴町と大通りに自転車で行って事足りる、という主旨のことを書いた。

イオンにも見習う点がたくさんある。たとえば、モニター制度。覆面で買い物をしてきてもらい、どこがよかった、どこが悪かったというのを出示してもらおう。そういうことをシステムティックにやっているのいいところ。

なぜ商店街にいかないのか、仲良くなるとおまけしてもらえるよ、という顔と顔がみえるお付き合いができたほうがいいのか。

花巻など、町には商店がない。大型店が引き上げたら何もなくなってしまう。

そういう点も考え合わせて、不買も含めて考えたらいい。

商店街のひとはまだアンケートを精査できていないとのことだが、お客さんがいいとっていて、商店街がよくないといている、そのギャップなのではないか？それをどうすり合わせるのか。

お客が大事じゃないのか？どこまで妥協するのか？

これまで生じているギャップをどう受け入れるのか、それも覚悟だと思う。

とよかわさん（盛岡市在住）

紫波町で社会実験をしている人から話を聞く機会があったので、その話を伝えます。

実は、いかに安全に歩くか、というのと商店街の活性化は相容れないかもしれないけど、それをうまく使って、商店街が取り入れるかがポイント。

同じように難しいのだな、という感想を今受けている。

久木田 >

安全に歩けるスペースを確保する、それで売上が伸びるのか、お客さんが喜ぶのか、ということ。実行委員会の考え方と商店主の方の考え方がずれてしまったと思う。

一つは最初のすりあわせが十分でできなかった。それは佐々木さん、清水畑さんの提案にもあったが、普段からやっていないと、さあそれではやってみましょうではできない。

商店街と消費者の付き合いを工夫しなくてはならないのかな、と思う。

先ほどの提案（恋する商店街、ストーリーを皆でつくる）への感想

渡辺 >

大通のエリアの中で今の町名の区切りと一つの痕跡を追いかけていくと、そういうストーリーはたくさんある。現場に行くと、まだそういう場所が残っている。十分に、地域の中に物語がある。

そういう時間の積み上げが合って今があるというのを、たとえば、恋が実るといふのなら、そのお話など探してみると、町内に祠などあるのではないかと、思う。

久木田 >

埋もれた宝というのを拾い上げて磨きをかけてネットワークするとストーリーのある何かができてくるかもしれないし、面白くなりそうに感じる。

斉藤 >

旧町名地図なんていうのを出しているが、そういうのはストーリーの塊。

神奈川では、昔の旧町名にもどして、アイデンティティーを取り戻すということをしている。

大通りについていえば、映画館があれだけあるのだから、映画館とのコンピレーションで何かできないか。

ぬくもりのあるそういうところが町のよさだから、共有していければと思う。

佐々木（俊） >

今日始めて聞いて、おもしろいな、と思ったが、どのようにやっていくのかはまだわからない。

政所さん >

恋する街というのはとても素敵なストーリーだ、と思った。

今回視察は東和町、紫波町、盛岡と見せてもらったが、東和町では盛り土をして車が低速で走るようにした。昼間は車がゆっくり走ってくれてよかったのだが、夜になったら、家の前の人、とんでもない音がして眠れなかったという。社会実験は言うは易しやるは難し、と感じる。

こういう声があった。老人が久しぶりにでたら同級生の人に会って、「あらあなたまだ生きていたの？」と。そういうかたちでおばあちゃんが昔の友達に会う、そういうのも恋なのではないのかな、と拝見した。

むしろ商店街というのは思い出がたくさんあればあるほど、昔の自分を取り戻したりとか、出会い発

見をたくさんくれる。商店街の道をどうするのかというのを考えて、恋する方法を考えるというのはとてもいいことではないかな、と思った。

高橋さん（盛岡在中）

社会実験が成功したか、失敗したか、論じる必要はないと思う。

実験だから失敗した所から見つかるわけで、下手に成功したとうよりは、問題が出てきてよい。あらゆることを全部拾い上げてそれを解決する方法に知恵を出すことが必要。たとえば納品にしても宅急便にしても、時間やルートを考えることになると思う。

先程から聞いている失敗というのは、なぜそれで失敗というのか。それをいい材料に変えていけばいいだけ。

高齢者のトイレの問題もあるが、長く歩けない、ちょっと喫茶店にはいるということもできない。気軽に入れる場所を確保するのも必要。そういう場所があればお年寄りにとっても出会いの場所があるのでは。そこでストーリーが生まれてくればいいのではないかと思った。

久木田 >

社会実験は何が正しい、何が悪かったのか検証するのが社会実験。ひとつひとつについてどうしたらそれを改善できるのか検討を。

盛岡市在住の方

シャッターに絵を描くという意見に関して。

子供の頃は映画の大看板があった。映画館の文化を大事にしたもの、たとえば、昔の名画の看板をテーマにしてはどうか。

久木田 >

すごくいい提案

斉藤 >

映画祭のときも投影できないか、と考えた。シャッターアートだと、いつもあるのがいい。夕張がいい例。

配送については、倉敷が車両進入禁止で実施している。そういうのを参考にしてもいい。

久木田 >

映画文化、というのはあるが、映画館文化というのは新鮮。活かせそう、という印象を持った。

清水畑 >

（佐々木さんの発表について）

同じようなことが提案されており、驚いた。「若者」と言い過ぎ、という意見に関しては、先ほど佐々木さんの提案を聞いたからではないか。

佐々木さんたちのグループで、議論の中でどういう話があがっていたのか教えて欲しい。

佐々木博希 >

楽しめないという要素として。

休めない。オープンカフェのイスにお年寄りが休憩しているその姿をみて、休憩スペースが必要ではないか、という話がでた。

タクシーのマナーが悪いなどという意見もあった。

今回の依頼を受けた時に、「学生らしい意見を」ということだったので、そういう意見になったのだが。若者中心の、というつもりではない。

久木田 >

私がそういう依頼をしたので。

佐々木（博） >

（清水畑さんの発表について）

ストーリー性というところで重なっていたので、考えていることは一緒だと、と思った。

斉藤 >

タクシー通行可ということだったが、流入規制はしたのか？

久木田 >

時速10キロ以下での走行を徹底して欲しい、ということもタクシー協会に依頼したが、徹底できていない車もあった。

斉藤 >

意外にタクシーの走行が少ないな、と感じた。

大通り商店街に対するアンケートの回収率が10%強。

那覇市の実験の場合は、通り沿いと裏通りに分けて検証している。もっと緻密な検証が必要なのでは。実際の数値を挙げるのには抵抗があると思うが、本当に大型店と対抗する覚悟があるのなら、実際の数字を挙げての精査が必要なのではないか。

大通商店街 青木理事

大通商店街は半分以上が組合に入っていない。

かつては、店主か家族が自分の商いとして商店街を構成していたが、今はテナントが半分以上。

フランチャイズ店などは、ほとんど協力していない。

まちづくりやアンケートにしても責任者が地元にはいないとできない。アンケートもそういうところは出していない。

よっぽど文句がある人が協力した人じゃないと出していない。

大通り商店街もいろいろやりたいが、入っていない所が問題。

やるにしても入っているお店が負担してやっている。

商店街もお金がない。殆どが赤字。商店街組合に入っているお店が入っていないお店の分も負担している現状を理解して欲しい。

最後にひとことづつ

政所 >

社会実験の大きなテーマは、街に人を取り戻す。オリジナリティをもってみつけるため社会実験をやる。したがって、答えはない。

または、大迷惑なら、具体的にどのくらいの迷惑か、迷惑もどのような種類の迷惑か。がまんしなくてはならないなら、どのように折り合いをつけるのか。

答えは一律ではない。くるしいのだ、というのを脱却するために具体的にどうするかということ。それには非常に大変なエネルギーがかかる。

話し合いが足りなかったということだが、年度の最初に話し合いを始めるが、もっと早く、といい続けてこれでも採択スケジュールが早くなっている。

一番ひどい時には雪の中 11 月にオープンカフェを実施した。

かなりの短い時間でこれだけまとめられたというのは、盛岡のパワーを感じた。

斉藤 >

帯広に行ったときに、屋台村にいった。たまたま入った店が中心のひと。まちづくりは馬鹿が 3 人いればできるんだ、といていた。応援するので、ぜひ頑張ってください。

佐々木(俊) >

参考にさせていただきます。

渡辺 >

急いで結論を出す必要はない。時間を掛けながらやっていったらいい。

佐々木(博) >

行政と商店街と住民のみなさんの連携を深めることが必要。巻き込んでいけること。

私たちが取り組めることはやっていきたいと思っている。

清水畑 >

自分のところを発表できたので、自分のチームの丸と罰を共有できたことがよかった。

久木田 >

やりっぱなしでは無駄になるので、私たちなりに次につなげたいと思う。

大通りの方でもぜひ良かった点、悪かった点を評価していただき自分たちの商店街どうしていったらいいのか考えるきっかけにできたらいいと思う。

社会実験は 1 年で終わりというところもあるが、2 年で続けて手を上げることができる。

しかし私たちが先頭を切ってということは考えていない。

大通りが次の形の実験をということであれば、サポーターとしてお手伝いしていきたい。

時間のため、以上で終了したいと思います。

以上

